



「離床センサー導入台数と機種、運用事例」

転倒・転落対策に欠かせないものになりつつある離床センサーですが、導入台数や機種について課題を抱えるユーザー様も少なくないのではないのでしょうか。今回は、いくつかの病院様・施設様の離床センサー導入とその運用について特集しました！

■ 病床数に対する離床センサー導入台数

離床センサーの台数は、病院・施設のタイプ、安全対策の考え方、利用者の状態など様々な要素によって変わります。実際に当社がヒアリング調査を実施したところ、離床センサー導入台数はベッド数に対して10～25%と幅がありました。また、予算の関係上十分な台数を確保できないことも多いようです。以下は、ある病院・施設様の導入と運用実例ですので、ご参考下さい。



導入コストは安くはありませんが、転倒・転落事故防止に期待されて導入されるようです。

■ 導入台数と機種、運用事例

石川県 K 病院 (250 床)

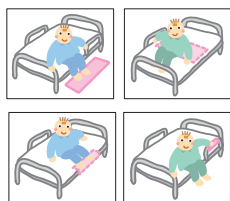
一般総合病院。特に地域の二次救急病院として急性期の患者に対応。

導入機種：①コールマット・徘徊コールⅢ②コールマット・コードレス③ベッドコール・ケーブルタイプ④ベッドコール・コードレス⑤サイドコール・ケーブルタイプ⑥タッチコール・コードレス⑦赤外線コール

導入台数：①3台、②17台、③3台、④1台、⑤6台、⑥11台、⑦2台 合計 43台
導入比率：約 17%

導入計画：病棟から要請→医療安全管理者が判断→総務へ申請

導入根拠：各病棟判断だったが、統計などを元に改善し管理していきたい。



適用：病棟内カンファレンスで患者の状態を把握した上で各病棟師長が判断。

管理：病棟管理をしていたが課題が多く、中央一括管理に切り替えるため整備中。

効果：(認知症患者の入院率が上がり状況が異なるため一概には言えないが) 重度事故が減少傾向にある。

課題：センサーの選定、適用基準を含めた院内の管理体制を早急に整える必要がある。

福岡県 S 病院様 (240 床)

一般病院。ICU、緩和ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟を備え、急性期～慢性期まで幅広い患者に対応。

導入機種：①コールマット・コードレス ②ベッドコール・コードレス

導入台数：①4台、②4台 合計 8台

導入比率：約 4%

導入計画：全病棟から必要台数と機種を集計→購入申請→院長決裁

*最終的には約 10%程度の導入を計画している。

導入根拠：他対策では事故防止が困難でセンサーの必要性が高い患者数を病棟ごとに集計し、委員会にて検討。



適用：病棟判断による。台数が少ないので最も転倒リスクの高い患者に使用。

管理：病棟で各 1 台ずつ管理。状況により数が足りない場合は病棟間の貸し借りも行う。

効果：事故発生率は横ばい。ただし、センサーの必要性は多くのスタッフが認めている。

課題：・使用上の問題で故障が何件か発生している。職員の入れ替わりもあるので、全員に正しい使用方法を周知させる必要がある。
・台数を増やしたい。



兵庫県 総合福祉施設 N 様 (243 床)

特別養護老人ホーム、ケアハウス、ショートステイ、デイサービス、グループホーム、小規模多機能ホーム、サポートハウス、ヘルパーステーションから成る複合施設

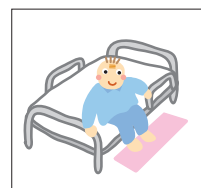
導入機種：コールマット・コードレス

導入台数：60台

導入比率：特養老人ホームベッド数比約 60%、全施設ベッド数比約 25%

導入計画：開設前より、介護スタッフの不安解消と入居者の安全の必要性から、現場経験が豊富な理事長へ説明、理解を得て導入。

導入根拠：入居予定者の ADL を元に予算化



適用：宿泊を伴うサービス全てで離床センサーを使用。入居間もない方は環境変化による不穏行動が出るので入居後一定期間の使用を定めている。その後は、①不穏行動 ②スタッフの案内を聞かない ③転倒リスクの高い内、2つ以上該当する人に。

効果：転倒・転落事故リスク軽減、スタッフの精神的ゆとり。

管理：中央一括管理。各ユニットからの要請に応じて貸出し。貸出し後は返却までユニット管理。

大阪府有料老人ホーム R 様 (67 床)

開設から 5 年が経過し、入居者の ADL が全体的に低下しつつある。

導入機種：①ベッドコール・ケーブルタイプ ②ベッドコール・ポータブル 2

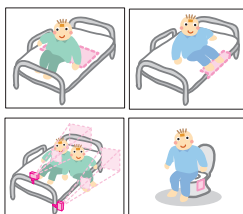
③サイドコール・コードレス④赤外線コール⑤トイレコール・コードレス

導入台数：①4台、②1台、③2台、④3台、⑤3台 合計 11台

導入比率：約 16%

導入計画：転倒事故を起こした患者、リスクが高いと判断した場合に家族に相談、離床センサーを提案しデモ機を経て購入検討。(入居者負担購入)

導入根拠：上記導入計画に基づき、効果があると判断した場合に購入。



適用：導入計画に基づく最適なセンサー

工夫：対象者の動きによって、同じセンサーでも設置位置を変えるなどを実施。

例) ベッドコールの敷き位置、遅延時間等

管理：日に 1 度の動作点検を義務化、点検時に異常があれば再点検 or 修理依頼。

課題：「センサーが鳴るとすぐに対応」という意識をスタッフが今後も持ち続ける。